

## Follow up

会長の時間 10-9月9日生まれのロータリアン

本日は9月9日生まれのロータリアンについて皆さんとたどってみたいと思います。1世紀以上遡りますが130年前の今月9日にアメリカインディアナで一人の男性が生まれます。6歳の時に父親が亡くなり、母親が工場に働きに出た為、3歳の弟と生まれたばかりの妹の面倒をみなければなりません。母親の代わりに三度の食事の支度をした為に料理の腕前をあげた事が、後の彼の運命に重要な影響を与える事になります。諸々あって30歳半ばで始めたガソリンスタンドの経営に失敗、新しく始めたレストランの経営がやっと軌道に乗ったころ一緒に働いていた息子を亡くします。更にレストランが火事。その後、独自のスパイスと調理法で作る料理を考え出し経営を立て直すも、レストランの近くに建設されたハイウェイのせいで車の流れが激減。ついに彼はレストランを手放します。彼の手元に残ったのは1台の車だけだったそうです。ただそんなどん底の中でも自分で開発した調理法を教えるフランチャイズビジネスの原型となる事業を思い付きます。その時、既に65歳。車で生活をしながら全米を回り、売り込みを続け、最初に契約を貰ったのは、なんと1010人目だったそうです。

しかし、そのお店がついには、120ヶ国・地域に約2万店以上展開する事となります。はい、お気づきの通り彼の名は、ロータリアンであるハーランド・サンダース、そうカーネル・サンダースですね。今月9日がその生誕130年でした。ところでどのお店の前にもあるこのサンダースの人形には、胸にロータリーバッジとその下にもう一つ“月に剣のバッチ”が通常付けています。フリーメーソンの上位の人が付ける、「ミスティック・シュライン」のバッチです。彼とフリーメーソンとの関係ですが、カーネルサンダースがフリーメーソンだった事はほぼ間違いありません。胸の「ミスティック・シュライン」のバッチだけでなく、彼のお墓には、フリーメーソンのマークがあります。

時間がありませんので詳しくフリーメーソンとロータリーに入り込めませんが、田中毅PDGの訳された「歴代RI会長のプロフィール」と言う文章があり、これはRIが1997年に発行した「Paul Harris and his successors ポール・ハリスとその後継者たち」を翻訳したもので、RI自身が今までタブーとされてきたフリーメーソンとの関係に触れて、レイモンド・ヘイバンズ元RI会長がフリーメーソンであったことを公表しています。他にも、何人かのRI会長を挙げ紹介されています。日本初のRI会長東ヶ崎潔（とうがさききよし）元会長もフリーメーソンであると書いている文献もあるそうですが、ロータリーの公文書にはその事に関する記載はないので真偽のほどは定かでないかとされています。

このフリーメーソンをめぐっては数々の都市伝説があり大変面白いところなのですが、時間がありませんので、2510地区の塚原房樹PDGが源流の会の中に「フリーメーソンに学ぶ」と言う興味深い寄稿をされておりますのでご興味のある方は、そちらをご高覧下さい ([https://genryu.org/rotarian/tsukahara/written\\_tsukahara\\_29\\_2016.html](https://genryu.org/rotarian/tsukahara/written_tsukahara_29_2016.html))。

さてロータリーとの関係ですが、1920年29歳の時に、ジェファーソンビルRCのチャーターメンバーとして入会します。1930年にケンタッキー州コービンにガソリンスタンドを移転したサンダースは、コービンRCに移籍、そこで「自動車には良質のガソリンが必要なと同じように、ドライバーにも良質な食事が必要である」と考えたサンダースは、ガソリンスタンドに併設して6席の「サンダース・カフェ」を開店。手製のフライド・チ

キンを出すのですが、これが美味しいと大評判になり長蛇の列ができるほど繁盛しました。それでガソリン・スタンドを売却して、道の反対側に 142 席の本格的なレストランを建設し、「ケンタッキー・フライド・チキン」の商標で、大々的なレストラン経営にのりだします。1935 年、ケンタッキー州知事から、おいしいフライド・チキンを提供した功績をたたえてカーネル Colonel 陸軍大佐の名誉称号を受けました。これが、ハーランド・サンダースにカーネルというニックネームがついた由来です。

彼がビジネスの基本にしたのは、次の四つのルールだったと記載されています。

1. そのビジネスに嘘偽りはないか
2. そのビジネスは関係するすべての人に公正か
3. そのビジネスは良好な人間関係を作っていくものか
4. そのビジネスは関係するすべての人にとって有益なものか

つまり彼は、ロータリーの四つのテストに照らしながら事業を営んでいた訳です。彼がロータリーに入会したのは、この四つのテストに魅せられたからだという記述がありますが、彼がロータリーに入会した 1920 年には、まだ四つのテストはできておらず、この記述は明らかな間違いだ、と田中毅 PG が書いておられます。

1952 年、高速道路が完成、コービンの道路事情が急変し、あまり自動車が来なくなったのを機に、レストランの廃業を決意します。その時、フライド・チキンの製造方法を教えてフランチャイズ化する方法を思いつき、ユタ州のハーマーズ・カフェで第一号店の契約を取ることに成功、その後 10 年間に全米の 600 のレストランと契約を結ぶことができました。フランチャイズ事業の契約内容は、

- ① 清潔なレストランであること。
- ② 圧力釜の性能の差で味が変わるのを防ぐため、圧力釜とタイマーをセットしたものを 35 ドルで購入すること。
- ③ フライド・チキン一ピース当たり 4 セントのロイヤリティを支払うこと。
- ④ スパイスの中身は秘密にして調合済みのものをロイヤリティに含めて渡す事でした。

このフランチャイズ事業が評判になってテレビに出演依頼がきます。

冬だというのに白いモーニングを着て出演したのが大うけたそうで、これがその後、カーネル人形として、ケンタッキー・フライド・チキンのトレード・マークとなりました。

彼がフランチャイズの仕事で飛び回った距離は 40 万キロ、地球を 10 週する距離でした。四つのテストを実行して、二度のビジネスを成功させた偉大なロータリアン、カーネル・サンダースは 1980 年、90 歳で白血病のため逝去しました。

今月、カーネルサンダースの生誕 130 周年月であることを記念し、皆さんと彼の人生とロータリーをたどってみました。

ではこれにて、おやかましゅうございました。

〈出典・源流の会 PDG 田中毅 等〉

2020 年 9 月 17 日第十例会 会長の時間にて 東野裕暢